

### Ⅲ 各教科の結果詳細

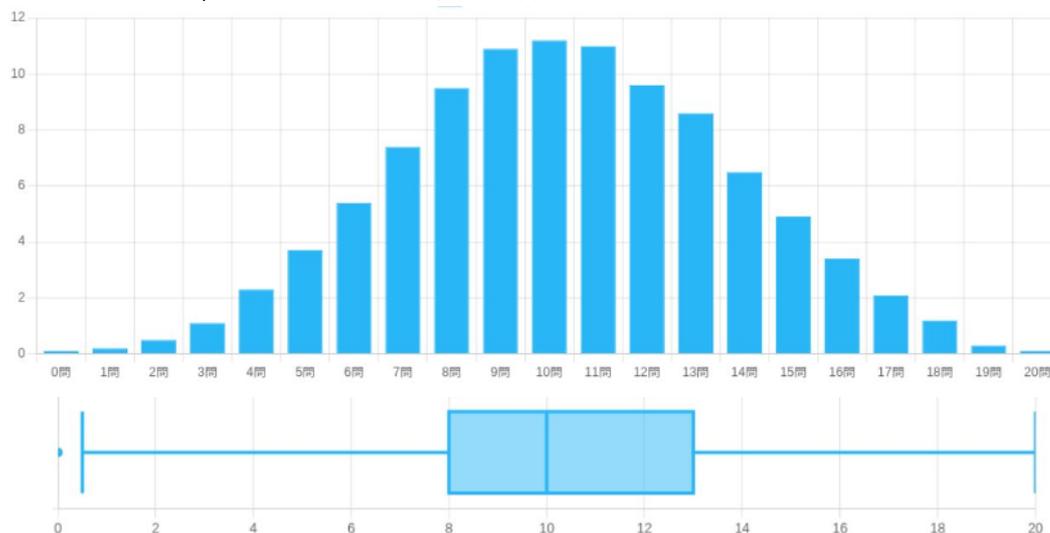
#### Ⅰ 国語

##### 小学校第5学年【国語】

##### (1) 平均正答数, 平均正答率

学年別 平均正答率	学年	小5	【参考】中1	【参考】中2
	知識・技能	5.0 / 7問 ( 71.4 % )	65.7 %	55.9 %
	思考・判断・表現 (話す・聞く)	0.9 / 4問 ( 23.3 % )	48.0 %	55.9 %
	思考・判断・表現 (書く)	1.5 / 3問 ( 49.7 % )	62.9 %	43.3 %
	思考・判断・表現 (読む)	2.9 / 6問 ( 48.7 % )	57.2 %	49.5 %
	全 体	10.3 / 20問 ( 51.7 % ) スコア 451	14.9 / 25問 ( 59.4 % ) スコア 500	13.5 / 26問 ( 52.0 % ) スコア 524

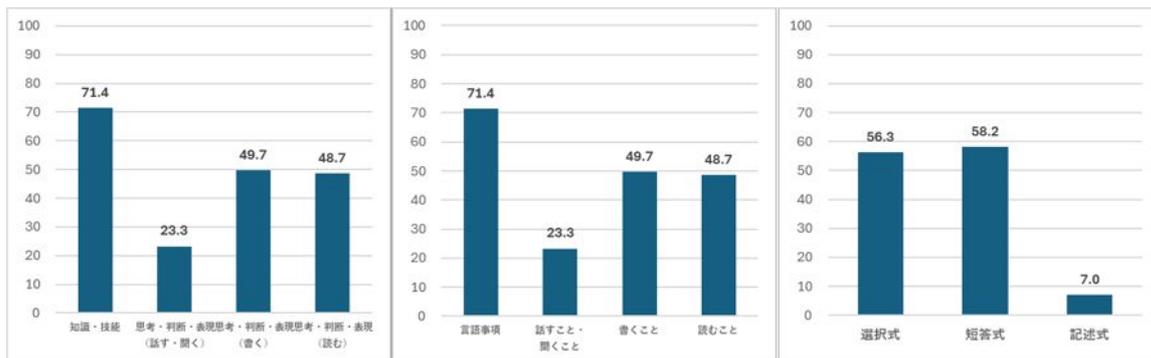
##### (2) 正答数分布, 正答数ごとの層分布



	D層	C層	B層	A層		県	自校
県分布	0~7問 (20.7%)	8~9問 (20.4%)	10~12問 (31.8%)	13~20問 (27.1%)	中央値	10.0	
自校分布	0~ 問 ( . %)	~ 問 ( . %)	~ 問 ( . %)	~20問 ( . %)	標準 偏差	3.4	

(3) 平均正答率（観点別，領域別，問題形式別）

小学校 第5学年	区分	問題数	平均正答率(%)	
			R7	自校
	全体	20	51.7	
観点	知識・技能	7	71.4	
	思考・判断・表現（話す・聞く）	4	23.3	
	思考・判断・表現（書く）	3	49.7	
	思考・判断・表現（読む）	6	48.7	
領域	言語事項	7	71.4	
	話すこと・聞くこと	4	23.3	
	書くこと	3	49.7	
	読むこと	6	48.7	
問題 形式	選択式	14	56.3	
	短答式	4	58.2	
	記述式	2	7.0	



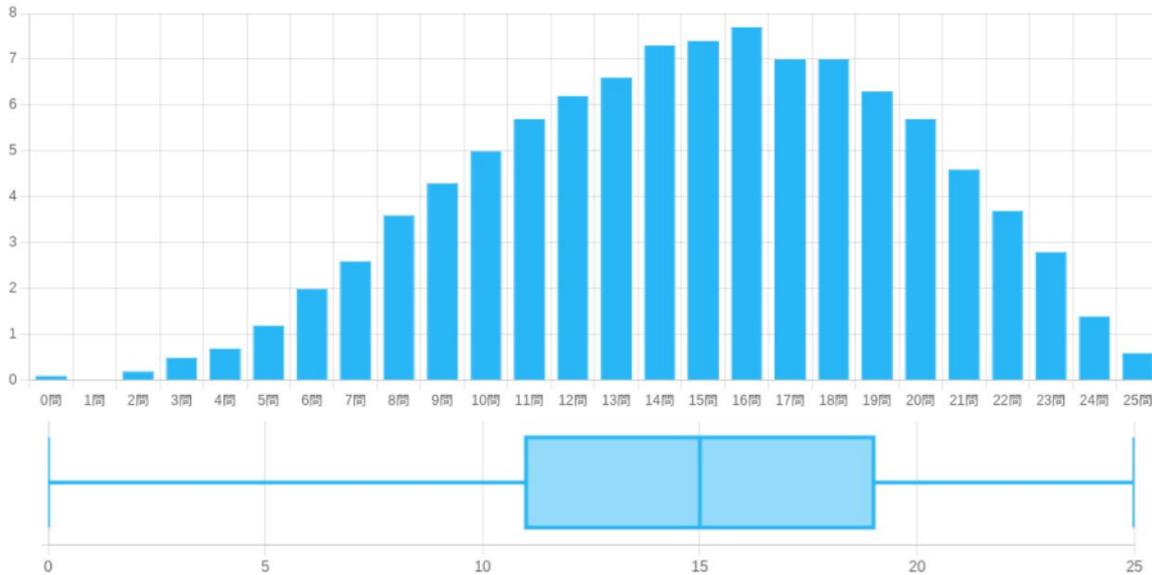
- 小学校第5学年国語の調査結果では，平均正答率は51.7%（10.3／20問）という結果となりました。「知識・技能」は71.4%と高く，「思考・判断・表現」について，観点「話す・聞く」は23.3%と著しく低い状況にあります。
- 各学力層の分布状況を見ると，A層（学力上位層）は13～20問と幅広い範囲に分布しており，上位層の中でも得点差が見られます。中央値は10問（全20問）であり，中位層に届かないC層（中位層）は8～9問と狭い範囲に集中しています。
- 領域別に見ると，「言語事項」は71.4%と高く，言葉に関する知識・技能は比較的定着していると言えます。一方で，「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」は5割前後またはそれ以下にとどまっていることから，言葉に関する知識の定着を基盤としながら，それらを活用して考えたり表現したりする言語活動を充実させることが課題であると言えます。
- 問題形式別に見ると，選択式・短答式は6割程度の正答率が見られますが，記述式の正答率は7.0%と極めて低く，今後，更なる詳細な分析と考察，授業改善が必要であると考えます。

## 中学校第1学年【国語】

### (1) 平均正答数, 平均正答率

学年別 平均正答率	学年	【参考】小5	中1	【参考】中2
	知識・技能	71.4 %	5.9 / 9問 ( 65.7 % )	55.9 %
	思考・判断・表現 (話す・聞く)	23.3 %	1.9 / 4問 ( 48.0 % )	55.9 %
	思考・判断・表現 (書く)	49.7 %	1.9 / 3問 ( 62.9 % )	43.3 %
	思考・判断・表現 (読む)	48.7 %	5.2 / 9問 ( 57.2 % )	49.5 %
	全 体	10.3 / 20 問 ( 51.7 % ) スコア 451	14.9 / 25問 ( 59.4 % ) スコア 500	13.5 / 26 問 ( 52.0 % ) スコア 524

### (2) 正答数分布, 正答数ごとの層分布

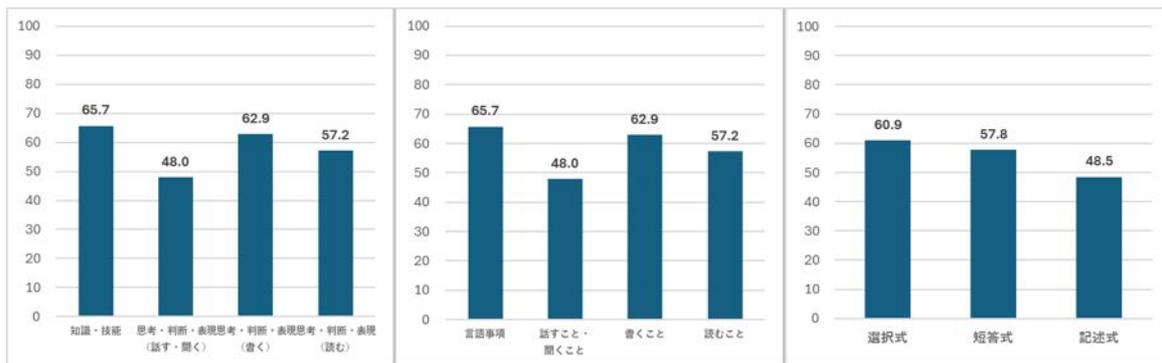


	D層	C層	B層	A層
県分布	0~10問 (20.2%)	11~14問 (25.8%)	15~18問 (29.1%)	19~25問 (25.1%)
自校分布	0~ 問 ( . %)	~ 問 ( . %)	~ 問 ( . %)	~25 問 ( . %)

	県	自校
中央値	15.0	
標準偏差	4.6	

(3) 平均正答率（観点別，領域別，問題形式別）

中学校 第1学年	区分	問題数	平均正答率(%)	
			R7	自校
	全体	25	59.4	
観点	知識・技能	9	65.7	
	思考・判断・表現（話す・聞く）	4	48.0	
	思考・判断・表現（書く）	3	62.9	
	思考・判断・表現（読む）	9	57.2	
領域	言語事項	9	65.7	
	話すこと・聞くこと	4	48.0	
	書くこと	3	62.9	
	読むこと	9	57.2	
問題 形式	選択式	16	60.9	
	短答式	8	57.8	
	記述式	1	48.5	



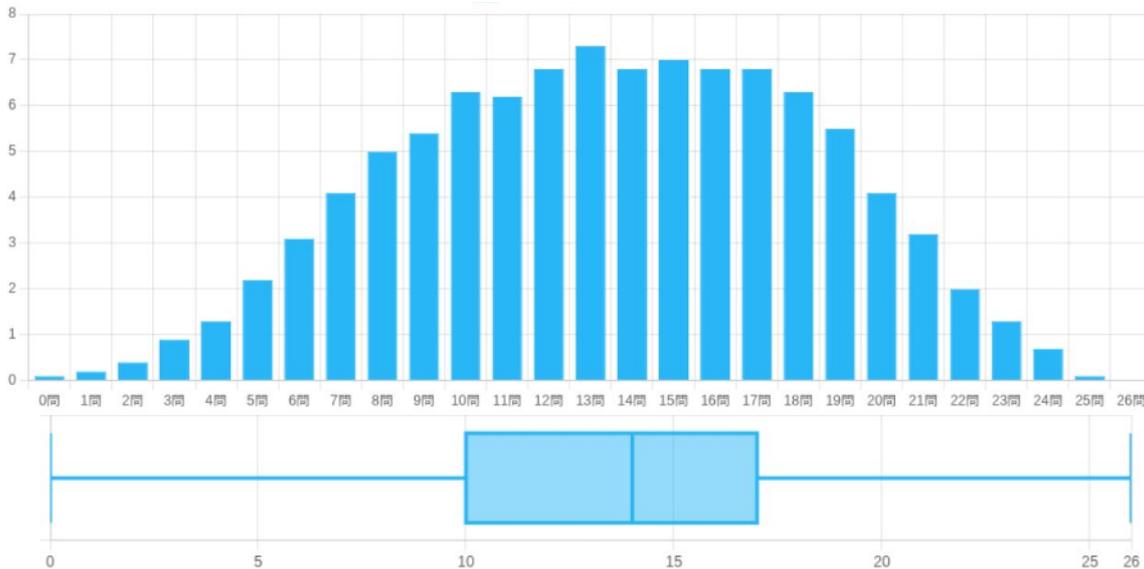
- 中学校第1学年国語の調査結果では，平均正答率は59.4%（14.9/25問）という結果となりました。「知識・技能」は65.7%と高く，「思考・判断・表現」について，観点「書く」62.9%や，観点「読む」57.2%も一定の成果が見られます。
- 各学力層の分布状況を見ると，D層（学力下位層）は0～10問と幅広い範囲に分布しています。また，標準偏差が4.6とばらつきが大きい状況にあります。全体として定着が図られていますが，下位層の底上げを意識した取組が求められます。
- 領域別に見ると，「言語事項」は65.7%と高く，「知識・技能」は比較的定着していると言えます。「書くこと」62.9%と「読むこと」57.2%については，当該学年までの資質・能力は一定程度身に付いていると言えます。一方，「話す・聞く」48.0%は，小学校第5学年や中学校第2学年と同様に正答率が低く，課題が見られます。
- 問題形式別に見ると，「選択式」60.9%・「短答式」57.8%は比較的高い一方，「記述式」は48.5%にとどまる状況が見られました。小学校第5学年や中学校第2学年と比べると高い結果ですが，3学年を通して，ICTを活用した学習活動の中での「記述」について，課題が見られます。

## 中学校第2学年【国語】

### (1) 平均正答数, 平均正答率

学年別 平均正答率	学年	【参考】小5	【参考】中1	中2
	知識・技能	71.4 %	65.7 %	6.1 / 11問 ( 55.9 % )
	思考・判断・表現 (話す・聞く)	23.3 %	48.0 %	1.7 / 3問 ( 55.9 % )
	思考・判断・表現 (書く)	49.7 %	62.9 %	1.7 / 4問 ( 43.3 % )
	思考・判断・表現 (読む)	48.7 %	57.2 %	4.0 / 8問 ( 49.5 % )
	全 体	10.3 / 20問 ( 51.7 % ) スコア 451	14.9 / 25問 ( 59.4 % ) スコア 500	13.5 / 26問 ( 52.0 % ) スコア 524

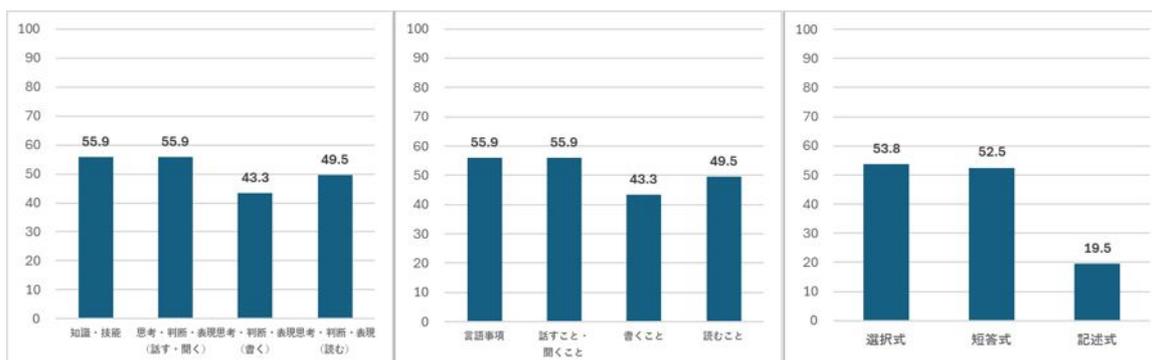
### (2) 正答数分布, 正答数ごとの層分布



	D層	C層	B層	A層		県	自校
県分布	0~9問 (22.7%)	10~13問 (26.6%)	14~16問 (20.6%)	17~26問 (30.0%)	中央値	14.0	
自校分布	0~ 問 ( . %)	~ 問 ( . %)	~ 問 ( . %)	~26問 ( . %)	標準 偏差	4.9	

(3) 平均正答率（観点別，領域別，問題形式別）

中学校 第2学年	区分	問題数	平均正答率(%)	
			R7	自校
	全体	26	52.0	
観点	知識・技能	11	55.9	
	思考・判断・表現（話す・聞く）	3	55.9	
	思考・判断・表現（書く）	4	43.3	
	思考・判断・表現（読む）	8	49.5	
領域	言語事項	11	55.9	
	話すこと・聞くこと	3	55.9	
	書くこと	4	43.3	
	読むこと	8	49.5	
問題形式	選択式	15	53.8	
	短答式	10	52.5	
	記述式	1	19.5	



- 中学校第2学年国語の調査結果を見ると、平均正答率は52.0%（13.5/26問）であり、全体としては一定の学習内容の定着が見られます。「知識・技能」及び「話す・聞く」に関する観点では比較的高い正答率を示し、「思考・判断・表現」について、観点「書く」43.3%及び観点「読む」49.5%は全体平均を下回る結果となっています。
- 各学力層の分布状況を見ると、A層（学力上位層）は17～26問と幅広い範囲に分布しています。また、D層（学力下位層）も0～9問と分布の範囲が広い状況にあります。第1学年以上にばらつきが見られており、生徒の状況に応じた手立てを工夫する必要があると考えます。
- 領域別に見ると、「書くこと」「読むこと」の正答率は50%を下回っています。特に、指導事項「推敲」「考えの形成」についての正答率が低い結果が見られます。また、「話すこと・聞くこと」の「考えの形成」の正答率は低い状況です。3領域の「考えの形成」場面において、考えはあるものの、それを根拠と結び付けて説明するなどの力が十分に育成されていないことがうかがえます。
- 問題形式別に見ると、「選択式」53.8%、「短答式」52.5%と一定程度の正答率が見られますが、「記述式」は19.5%と低い状況にあります。資料や知識を根拠とした考えの形成する際に、目的や意図を明確にしたり、ICTを効果的に活用したりしながら、相手に伝わるように表現する力が十分でないと考えられます。